



Contents

さくらサミット シンボルマーク・憲章	2
開催概要	3
スケジュール	4
加盟自治体 PR ポスター・特産品展 桜文作品展・桜の絵手紙展・桜フォトコンテスト入賞作品展	5
サミット事前会議	6
歓迎の歌	7
主催者あいさつ	8
来賓あいさつ	9
サミット全体会議	11
共同宣言	31
調印式	32
次期開催地あいさつ	34
第8回桜の親善大使任命式	35
さくらサミット記念講演会	41
見学会・記念植樹	47



さくらサミットシンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。



さくらサミット憲章 (平成元年9月22日制定)

Success

成功

第1条： 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach

接近

第2条： 「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword

言葉

第3条： まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity

調和

第4条： 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation

縁

第5条： 「桜」によって結ばれた縁を大切に、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement

合意

第6条： 共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。



開催概要

- 名 称 第 16 回さくらサミット in 富岡
- テーマ ～桜でひとつになる瞬間～未来への架け橋
- 目 的 「桜」をまちのシンボルとし、桜によるまちづくりを推進しようとするサミット参加各自治体のHPを利用し、“桜”をキーワードとした「情報の交換」「特産品の流通」「観光客の集客」へとつながるように手を結ぶことを目的に、現状や課題について討議しネットワーク構築を図る。
- 日 時 平成 18 年 1 月 26 日(木)～27 日(金)
- 会 場 富岡町文化交流センター「学びの森」ほか
- 主 催 福島県富岡町
- 共 催 富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会
- 後 援 福島県、富岡町商工会、富岡町教育委員会、福島民報社、福島民友新聞、河北新報社、NHK 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島
- 参加自治体
 - 北海道 静内町
 - 茨城県 日立市
 - 埼玉県 幸手市
 - 長野県 高遠町
 - 奈良県 吉野町
 - 熊本県 水上村
 - 秋田県 仙北市
 - 群馬県 前橋市
 - 東京都 北区
 - 岐阜県 本巣市
 - 長崎県 大村市
 - 福島県 富岡町



スケジュール

1月26日(木)

- 13:10～ さくらサミット 【会場】「学びの森」大ホール
- 開会
 - サミット全体会議
 - テーマ「～桜でひとつになる瞬間～未来への架け橋」
コーディネーター 篠田伸夫氏
 - 共同宣言採択
 - 調印式
 - 次期開催地発表 サミット旗次期開催地へ伝達
 - 閉会
- 16:00～ 第8回桜の親善大使任命式
- 第8回桜文大賞「桜にまつわる思い出の手紙」授賞式
 - 受賞作品朗読
 - 特別選考委員 小室等氏
- 17:00～ さくらサミット記念講演会
- 講師 大石邦子氏(エッセイスト)
演題 「桜とわたし」
- 18:00～ サミット加盟自治体物産品 プレゼント
- 18:30～ 交流会 【会場】リフレ富岡



1月27日(金)

- 9:00～ 見学会①
- JR夜ノ森駅・夜の森公園桜通り・
富岡第二中学校脇桜並木・宝泉寺
- 9:30～ 記念植樹 【会場】富岡町総合スポーツセンター
- 10:00～ 見学会②
- 愛成園(桜染め)・エネルギー館
- 11:30 解散



加盟自治体PRポスター・特産品展 桜文作品展・桜の絵手紙展・桜フォトコンテスト入賞作品展

会場：富岡町文化交流センター「学びの森」ふれあい広場



ふれあい広場



自治体のポスターや物産品を眺める来場者の方々



桜にちなんだ作品の数々



サミット事前会議

会場：富岡町文化交流センター「学びの森」第一会議室



事前会議のようす



遠藤町長のあいさつ

桜の歌



町立富岡幼稚園 58名のみなさんによる歓迎の歌

「小さな子どもの^{ひびき}響」

主催者あいさつ

富岡町長 遠藤 勝也

本日、第 16 回さくらサミットの開催に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。全国のさくらサミット加盟自治体 20 市区町村の中から、何かとお忙しい時期にもかかわらず、北は北海道静内町様、また南は熊本県水上村様、長崎県大村市様など、遠方から多数の参加をいただき、心から感謝を申し上げる次第です。さらには福島県知事様代理の箱崎福島県原子力等立地地域振興事務所長様はじめ、福島県議会議員様など、多くのご来賓のご臨席を賜りサミットを開催できることは、富岡町として大変名誉なことと存じます。

さくらサミットは、桜をキーワードにした“まちづくり”を共通テーマに、連携して発展することを目的に開催されています。わが町の桜については、いまから 100 年ほど前、一人の開拓者が原野を切り開き農場経営をしたときに、寂しい環境を癒すため、陸前浜街道から入植地までの道に、桜を植えたものが最初と聞いています。その後、桜を愛する人たちが受け継ぎ守り育て、いまでは 2.5 km の見事な桜並木となっています。いま私たちは、このすばらしい環境を町民全体の財産として守り、発展させながら後世に引き継ぐべく努力しているところです。

そのような中、わが町合併 50 周年記念事業の一つとして、第 16 回さくらサミットをここ「学びの森」で開催できることは、町民全体の喜びと誇りにしているところです。前回、熊本県水上村で開かれた第 15 回サミットにおいて、次期開催地としての決意あいさつ後、諸準備に取り掛かりましたが、あつという間の開催となってしまう、何かと不手際な点などもあります。サミットの成功に向け精一杯努力しますので、皆様方のご意見をお聞かせいただき、よりよいさくらサミットにしたいと考えていますので、よろしくお祈りします。

最後にここにお集まりいただきました皆様方のご健勝とご多幸をお祈りして、私のあいさつといたします。本日は誠にありがとうございました。



来賓あいさつ

福島県知事 佐藤 栄佐久



第16回さくらサミット in 富岡の開催に当たり、お祝いの言葉を申し上げます。本日は全国各地から大勢の方々が福島県富岡町にお集まりいただき、さくらサミットがこのような盛大に開催されますことは、誠に喜ばしいかぎりです。さくらサミットは、桜を中心とした町づくりを目指す全国の自治体が、地域振興に関する情報交換を行うために、昭和63年に島根県木次町で開催されてから20年を経過しようとしていると伺い、加盟自治体の皆様のこれまでのご努力に対し、深く敬意を表する次第です。

さて、ご承知のとおり我々、地方自治体を取り巻く環境は、非常に厳しいものがあります。三位一体改革をはじめとする地方分権の流れは急速に進展しつつあり、地域の実情をよく知る我々に課せられた使命は、非常に重いものがあると考えています。富岡町におかれましては、桜にまつわる思い出の手紙「桜文」募集をはじめ、桜をキーワードとした事業による魅力ある地域づくりに取り組まれるとともに、豊かな地域資源を生かした施策を創意工夫の下、積極的に展開されています。このような中、ここ富岡町において、桜を通して独創的な地域振興を考える各自自治体が、一堂に会しサミットを開催することは、誠に意義深いものがあると考えています。

本県においては、県政運営の基本方針である福島県新長期総合計画「うつくしま21」の基本目標である「地球時代にはばたくネットワーク社会～ともにつくる美しいふくしま～」の実現に向けて、各種施策を展開しています。特に昨年を分権時代における教育元年と位置づけ、全国に先駆けて小中学校全学年に30人程度学級を導入するなど、本県独自の展開を進めてきました。

本年はここ双葉郡の富岡町、そして隣接する楡葉町、広野町と連携の下、富岡町に設置されている富岡高校を中核として、中高一貫教育により国際的視野に立ち、スポーツをはじめさまざまな分野において、社会をリードする人材を育てる事業が、日本サッカー協会などと連携しながらスタートします。これに伴い本年4月より、全国各地から選抜された中学生・高校生がこの双葉地域に集い、生活をする事となつていきます。この地域の桜は例年4月上旬に見頃を迎えます。全国各地から集う中学生・高校生の新しい門出を祝うかのように咲き誇るであろう桜は、訪れる多くの方々の心を、大いに和ませ感動させてくれるものと思っています。

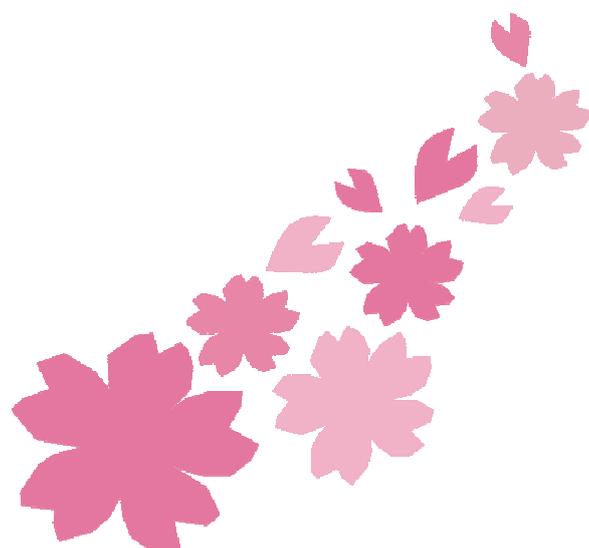
また本県には富岡町の桜をはじめ、多様な、そしてすばらしい観光資源があります。特に本年度は富岡町を含む本県の太平洋側の浜通り地方において、観光キャンペーンを展開しています。サミットの内容を拝見しますと、盛りだくさんの内容となっていますが、富岡町をはじめとする双葉地域の豊かな自然や特産品を味わい、さらには地元の方々との交流を深め、実り多い会議となりますようお願い申し上げます。

終わりに本大会を契機として、桜による交流の輪がさらに多くの地域に広がることをご期待申し上げますとともに、サミット加盟団体の発展とご参会の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

(代読：福島県原子力等立地地域振興事務所長 箱崎 忠一)

サミット全体会議

～桜でひとつになる瞬間とき～未来への架け橋



コーディネーター

篠田 伸夫(しのだ・のぶお)

- ・東京海上日動火災保険(株)顧問
- ・(財)消防試験研究センター顧問
- ・前全国町村議会議長会事務総長



1943年鳥取県生まれ。67年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、87年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、行政部長、岐阜県副知事、消防庁次長などを歴任。2000年4月より全国町村議会議長会事務総長を務め、05年4月より現職。

〔篠田〕 皆さん、こんにちは。お昼ごはんを食べたあとというのは、眠たくなるものですが、貴重な時間ですから目をパッチリ開いて、一つよろしくお願いします。先ほどは、まだ冬ですが、本当にここに桜が見事に咲いたような感じでした。幼稚園の園児が、ほっぺたを桜色にして私たちを歓迎してくれましたが、本当にありがたいなと思って聞いていました。本当に元気いっぱい、みんな色が白くて美人の産地なのかなという感じがしました。別にこれはゴマをすっているわけではありません。

実はこのさくらサミット、今回第16回ということですが、一体どんなことから始まったのだろうかということについて、疑問というか関心をお持ちかと思います。先ほど若干説明がありましたが、いまから約20年前ですが、昭和63年4月に島根県の木次町というところで、第1回が始まりました。何で昭和63年4月なんだろうな、あるいは何で島根県の木次町が始めたんだろうなと思われると思いますが、実はちょうどその1年前の昭和62年に、第四次全国総合開発計画、四全総が策定されていました。東京一極集中問題があり、一方で地方は過疎で苦しんでいるということで、それを解決しなければいけない。日本列島が凸凹の状態ではよくないのではないか。そのために全国総合開発計画が策定されているわけですが、この四全総はまさに東京一極集中を是正すると同時に、そのための対策として極を多極的にし、多くの極をつくることによって、東京のエネルギーを分散しようではないかと考えた。多極分散型国土の形成を狙って、この四全総が策定されました。

そのときのキーワードが地域間交流というものでした。木次町さんはこの地域間交流というキーワードを聞いて、これはいただきだとサミットを思いついたと聞いています。ただ全国に呼びかけるに当たり、何も共通点がないままに闇雲に呼びかけても、人は集まってくれません。何か共通点はないかなということになるわけですが、木次町さんはちょうど「桜の咲く健康の町づくり」というのを、総合計画のテーマにしていたそうです。そうだ、そうだ、桜による町おこし、町づくりをやっている全国の同志に、声をかけようではないかということで、このさくらサミットが始まったわけです。第1回は11団体が集まった。以来回を重ねまして、今回で16回目ということですよ。

私がいつからコーディネーターの仕事をやっているかということですが、今日もご出席の北区さんが、平成10年に第10回のサミットを主催しました。私はかつて東京都で行政部長、特別区の皆さん方と大変親しいセクションの部長をやっていたものですから、当時の区長さんから、ぜひともコーディネーターをやってくれよと

ということで、第 10 回からコーディネートを務めさせていただいています。それ以降ずっとお手伝いをするということで、今回もこちらに来させてもらっています。

私はそういうことで過去第 10 回から第 15 回まで、コーディネーターを務めているわけですが、このさくらサミットに参加して、率直なところ、せっかく自治体のトップの皆さんがお集まりであるにもかかわらず、ちょっと桜自慢に終始してしまったのではないかという感じがしています。先ほど映像で皆さん方ご覧いただきましたように、本当にそれぞれすばらしい桜、まさに自慢したいような桜をお持ちです。それはそれでやはり自慢をしていただきたい、あるいは自慢したい気持ちは分かるわけです。またサミットの会場は毎年毎年変わりますから、やはり市民の皆さん、町民の皆さんにとっても、あの町の桜はどういうものかな、知りたいなという気持ちになるのは当たり前です。

そういうことで、桜自慢に終始したというのは分からないわけではありません。しかし、サミットというのはそもそも考えますと、何かの縁でつながりのできた自治体のトップが、あるテーマを巡って自由かつ達意に意見を交換する。そこにサミットの最大の意味があると思います。そうしますと桜自慢だけに時間を使ってしまうというのは、やはりいかにももったいないなと思うわけです。実はそういう思いを富岡町長さんは大変強くお持ちで、今回はぜひとも意見交換に時間を使いたい、そういう考え方でサミットをやりたいと事前にお話がありました。そういうことで桜自慢は、先ほど見ていただいたようにスクリーン、あるいは下のポスターで我慢してもらおうといたしますか、そういうところにお任せして、意見交換に時間を使おうということになりました。そういうことですので、もし〇〇市、〇〇町の桜についてより詳しく知りたいということでしたら、のちほど町長さんや担当者をつかまえて、お話を聞かれたら幸いかなと思います。

本日の会議の運営ですが、このあとすぐ富岡町長さんから提案があります。現在、全国 20 の自治体が、このさくらサミットに参加しています。きょうはいろいろな事情で欠席のところもありますが、20 の各自治体のホームページをつないで、リンクしていこうではないかという提案をされます。その提案について、のちほど自由に意見の交換をしてもらおうわけですが、私はコーディネーターとして、せっかくこの会場にお越しの皆さん方にも、ぜひとも意見を開陳していただくありがたいなと思います。時間があれば、ぜひとも皆さん方のご意見をお願いしたいと思っています。

もう一つのテーマを実は隠しています。現在、地方財政は大変厳しいです。そういう時代でも自治体の責任者は、住民のためにがんばらなければいけません。どういう運営をしていけば、そういう厳しい財政の中で、住民の皆さんに満足していただけるだろうか。そういう知恵の交換ということに、もし時間があれば移っていきたいと思います。だいたい大きく以上二つのテーマを用意していますので、どうぞ皆さん、関心をお持ちいただければ幸いかなと思います。

それでは早速ですが、富岡町長さん、ご提案をよろしく申し上げます。

富岡町の提案—ホームページのリンクについて

〔富岡町 遠藤町長〕 それでは第 16 回さくらサミット in 富岡テーマについて提案をさせていただきます。

現状とその課題として、これまでサミットにおいては、桜の保護育成、町づくり全般についてそれぞれが情報を発信し、問題点について話し合ってきましたが、お互いに一年を通してうまく連携がとれない状況にありました。

そこで第 16 回さくらサミットのテーマとして、富岡町が提案したのは、時代の流れに沿ったテーマ、しかも時代を象徴しつつ、いまやらなければならないこと、それは桜をキーワードに、さまざまな事業に取り組んでいるサミット加盟各自治体同士が、一つの具体的な形として、各自治体のホームページを利用し、インターネット

トで手を結ぼうというものです。「～桜でひとつになる瞬間（とき）～未来への架け橋」には、桜を町のシンボルとして、桜による町づくりを推進しようとする私たちが、これまで取り組んできたこと、市町村合併による大きな現状変化への対応や今後の課題について、情報交換できるネットワーク化に着手し広げていこう、という未来への期待や思いが込められています。

具体案としては、第一に各自治体のホームページをリンクする。サミット加盟自治体のホームページ同士がリンクを張ることにより、これまでより容易に、加盟自治体全体の桜に関する情報を提供、閲覧することが可能となります。情報の交換の結果として、特産品の流通や観光客の誘致、集客が予想されます。

第二にホームページの課題、将来性を検討し、充実したコンテンツ構築に向け、各自治体が積極的に取り組む。今回のサミットにおいて、その問題点、将来性を話し合うことで、それぞれのなすべきことが明確になってくるのではないのでしょうか。それは経費の問題であったり、桜イベントの内容や桜マップの作成、特産品の開発や流通であったり、サミットの効果が実感できる内容になることを期待しています。

第三にリンク網のネーミングを設け、その調印式をサミットにて行う。誰が見ても桜をキーワードにしていることが分かり、一度聞いたなら忘れないようなネーミング、未来を感じさせるとともに、日本的情緒もあり世界にも通じる名前として、「桜里園（おりおん）ネット」を提案します。

以上で提案の説明とします。

各自治体ホームページの現状と課題

〔篠田〕 はい、ありがとうございます。町長さんからお話のように、いまホームページをつくっていない自治体はまずないと思うのですが、せっかく各自治体のホームページがありながら、それがネットワーク化されていない。それをネットワークしようではないかということでした。この議論を深めていきたいと思うわけですが、そのために事務局で細分化したテーマを三つ用意しています。一つは各自治体のホームページの現状と課題。二つ目が自治体のホームページをリンクさせる場合の利点、課題、将来性。三つ目にリンク網のネーミング。この三つを用意していますので、順を追って議論を深めていきたいと思えます。

最初に自治体のホームページの現状と課題について、議論をしていただくわけですが、若干議論の参考になるような話を、私から数点させてもらいますので、少しお時間をちょうだいしたいと思います。いま富岡町長さんから、自治体のホームページのリンクについて、あえて提案があったわけです。逆にいうと、いまサミットにせっかく参加していながら、自治体のホームページがまったくリンクされていないんだな、残念なことだなと、皆さん方はお思いになるかもしれません。実はそうじゃないのです。いまでも曲がりなりにもリンクらしいものはあります。

いま画面に映りましたが、これは出版社のぎょうせいのホームページです。このホームページを検索してクリックしていきますと、さくらサミットというページが出てきます。その中に、参加自治体の名前が掲載されています。これは一部脱退した名前も出ていますので、現在の参加自治体は20団体ですが21あります。その中を見ていくと、ある団体については下のほうにホームページアドレスが掲げられていて、それをクリックすると、その自治体のホームページに、ポーンと飛んでいくという仕掛けになっています。そういうことで自治体のホームページのリンクが、まったくなくはない。やっていないわけではないのです。



ところがずっとこうして見ていくと、ある自治体については、ホームページアドレスが

書かれていません。つまり参加 20 自治体のうち、数えますと 14 の自治体は、自分のホームページとうまくリンクが張られているのですが、残念ながらそういうことをやっていない自治体もまだある。これはせっかくこのさくらサミットに参加しているわけですので、全団体がリンクを張るといことにしてもらおうと、ありがたいなと思います。これが、今日町長さんが提案された問題の第一だと思います。

問題はまだ二つぐらいあります。もう一つの大きな問題は、実はいまぎょうせいのホームページからクリックして行って、さくらサミットのホームページにきたわけですが、国民の皆さん、あるいはきょうお集まりの町民の皆さんも、「出版社のぎょうせい?」「知らないね」、「さくらサミット?」「初めて知ったよ」。そういう方が大半だろうと思うのです。つまりぎょうせいという出版社の名前や、さくらサミットということを知らない一般の不特定多数の国民の皆さんは、残念ながらさくらサミットというホームページに、アクセスしようにもアクセスできない現状になっているのです。

これは本当はもったいない話なのです。桜で町おこしをやっている。そういうすばらしい自治体のことを、不特定多数の国民の皆さんが知ろうと思っても、知ることができないというのは誠に残念です。私も自分のパソコンで、ヤフーに「さくら」と打って検索してみましたら、「さくら」はたくさんあるのです。横峯さくらさんなんていう名前はすぐ出てくるのですが、残念ながらさくらサミットは出てこない。「さくらサミット」あるいは「ぎょうせい」と打ってみると、すぐアクセスできるようになっています。だから現状はこのさくらサミットのホームページは、仲間内だけのホームページ、閉鎖的なホームページになっています。これはやはりまずいんじゃないかな、あるいはそれ以上に寂しいんじゃないかな、そういう感じがします。

曲がりなりにもホームページができてはいますが、これはどういういきさつでできたかという、宮崎県北郷町で第 11 回のサミットを開催したときに、これまで 10 回もサミットをやって、せっかくのいいデータがありながら、それがデータベースになっていない。いかにももったいないじゃないかということで、データベースにしようよということが課題になりました。そうするとホームページを作るのが、一番手っ取り早いじゃないかということになったのです。ただお金の問題がありました。そこで事務局であるぎょうせいのご協力で、現在のさくらサミットのホームページを立ち上げていただいたのです。そういういきさつでこれできています。

ただ、このさくらサミットのホームページに載っているデータは、先ほど見ていただきましたが、加盟自治体の名簿やさくらサミット開催情報、今回は富岡でありますよというような情報、あるいは日本さくらの会などへのリンク、それから事務局日より、サミット憲章というものしか載っていません。情報のデータベース化というわりには、不十分だと率直に感じます。以上三つの問題点があるということ、冒頭参考のために申し上げました。

さて、それではフリーディスカッションに入ります。まず 1 番目の各自治体のホームページの現状と課題についてですが、どなたからでも結構です。まず桜による町づくりをやっているわけですから、桜による町づくり、町おこしのために、ホームページをどのように活用しているのかについて、自分のところではこんなことをやっているよというところをご発表いただきますとありがたいのですが、どなたかいらっしゃいませんか。どうぞ、仙北市さん、お願いします。

〔仙北市 石黒市長〕 私は仙北市の市長ですが、仙北市というよりも角館は桜とはかわりの深いところです。去年 9 月 20 日に仙北市に合併をし、実は仙北市のホームページは暫定のものを持っていますが、仙北市として見直しをして、新しく 4 月 1 日からスタートしようというところで、いま策定中です。したがって正式のものはいまないので、旧角館のときのものの経験を十分生かしてやっていきたいと思っています。

私どもではやはり桜ということで、皆さんにいろいろなことをお知らせし、興味



を持ってもらうということで、いままで過去何年ものあいだに蓄積された開花状況の提供や、もう一つは当年の現在の開花状況も、市の特定の桜を選んで、リアルタイムで毎日データを更新しながら、状況を皆さんにお知らせしたりしています。非常に好評で、市のホームページのアクセスも桜の期間、前後併せて1ヵ月ぐらいのあいだに3万件ぐらいありまして、いま言ったよ

うな内容はぜひ盛り込みたいと思っています。

それから桜はやはり管理されてこそ長持ちもするし、いい桜も咲くということの中で、保存管理計画、またそれによる保存工事といったこともやっていますので、そういった経験や進ちょく状況も、そのホームページの中で皆さんにお知らせしていきたいと思っています。以上です。

〔篠田〕 ありがとうございます。実は仙北市には、今日もお越しですが、黒坂さんという職員の方がいらっしゃるしまして、桜の樹木医として大変有名な方です。朝日新聞の全国版に大きく紹介されまして、お顔が出ました。いま桜の管理計画をつくっているというお話がありましたが、やはりそれぐらいの力の入れ方をされています。どうなのでしょう。例えばそういう管理計画などを読んでみて、自分のところの町の桜も非常に弱っている、何かいい知恵はないかねなどということ、質問を受けて答えられるような場は用意されているのでしょうか。

〔仙北市 石黒市長〕 現在のところ、そこまでの対応が十分にできているとはいえないのですが、今後はそういったことも対応したいと思います。お電話、手紙等で直接ご相談いただくことは、過去にもたくさんありました。それは職員の持ち時間の中で、できるかぎりいままでの経験を皆さんに提供はしてきています。

〔篠田〕 ありがとうございます。なぜそういう質問をしたかということ、ソメイヨシノは、比較的病気に弱いか寿命が比較的短いということで、結構自治体は悩んでいるわけです。そういうことを仙北市にいる専門家の樹木医の方に質問して、黒坂さんが答えていく。そういうやり取りが集積されていけば、そこにアクセスすることによって大変な勉強になる。いうならば桜の図書館がそこにできるようなことになるのだらうと思います。そういう点では、ぜひともそういうやり取りを蓄積していただいて、それをホームページで公開する。桜の図書館を全国の皆さんに公開するようなことをやっていただくと、大変いいのではないかと思います。

皮切りにいま仙北市の市長さんからお話が出たのですが、いや、自分のところだって、もっとすごいことをやっているよというところが、当然あると思いますが、いかがですか。日立市さん、どうぞ。

〔日立市 根本助役〕 日立市です。すごいことをやっているということはありませんが、市の現状、問題点を少し申し上げたいと思います。先生がおっしゃったように、うちも市全体のホームページは持っています。いろいろな行政情報の提供、イベント情報を公開していますが、観光情報についてはそのほかに日立の観光協会というのがあり、そこで独自に発信をしています。桜に関する情報もあることはあるのですが、その内容はさくらまつりに関することがほとんどで、桜をいかに守ってきたか、いまどういう活動をしているのかといった情報は、いまのところ皆無だという状況です。

日立市は市としては珍しくお天気相談所を持っています。気象予報士が3人ぐらいいいて、地域の天気予報を出しているのですが、その中で毎年、桜の開花予報を毎日しています。開花予報は残念ながら、観光協会のホームページではなくて、天気相談所のホームページに載っているという状況です。桜なら桜の情報を一つにまとめた発信が、まだできていない。大きな反省点だと思っています。以上です。

〔篠田〕 ありがとうございます。実はのちほど、そういうことについてちょっと触れたいと思っていたのですが、例えば桜に関する団体のリンクの欄をつくっておいて、そこから関係する団体のホームページにリンクできるようにしておけば、市民や関心を持っている人にとると、一発でいろいろな情報が得られることになる。そういう意味では、工夫すればこういうインターネットの最大のメリットを使えるんじゃないかなと思います。のちほどまたその問題に触れたいと思いますが、ありがとうございます。さてほかのところ、いかがですか。どうぞ、吉野町さん。

〔吉野町 福井町長〕 吉野町の福井です。ホームページの使い方、効用はいろいろあるかと思いますが、実は私ども吉野町は小さな役場ですから、3月から4月の初めまで電話がパンクするのです。町民から役場へ電話しようと思ってもつながらないという状態が、過去何年も続いています。その対策のために、隠し電話をつくったり、あるいはケーブルテレビに電話をつくって、域内だけしか使えない回線をつくったりしていました。

ホームページを開設しますと、それがだいたい2割ぐらい減りました。そんなにたくさん減るわけではないですが、何となく電話もつながるようになりました。ホームページでは、例えば今度の見頃はいつ頃ですかというだけではなくて、過去には何年にはいつ頃見頃だったかということまで、詳しく関連した情報を流せるわけですから、そういう意味では役場の運営上は助かったということになります。

一方、ホームページを開く皆さん方に、地域の情報を押しつけてでも売っていいという意図があるかと思いますが。私ども吉野町の桜は、自慢するわけじゃないですが、全国的に有名になったのは、800年ぐらい前になるかと思うのですが、西行さんの時代。そして本当に全国津々浦々まで知られるようになったのは、その西行さんと同じ頃に吉野にこられた義経さんを題材にした「義経千本桜」という歌舞伎が、江戸時代に登場したことです。その歌舞伎によって、400年以上の時を経て、全国的な桜の名所になったのではないかと、私は思っています。

いまはそういうことをする必要はないでしょう。400年も待たなくてもホームページに書くことによってつながっていくという時代ですから。そういう意味でこのツールを利用していくということは、ぜひとも必要なことではないかなと思います。また、私どもはこれを通じて、桜というものを公表していきたい。全国の桜の名所ばかりがここに集まっていますが、その歴史の長さからいったら、絶対に吉野はほかのところには負けないわけですから、桜を公表することが吉野を高めることだと私は信じています。菊と桐が日本の国の権力を代表する樹木、花なら、桜は日本人そのものを代表する花であると私は信じています。そういう形の展開がホームページを通じてされていけばなと願っているところです。



〔篠田〕 ありがとうございます。いま日本人の心が桜、桜は日本人の心だというお話がありました。北区で第10回さくらサミットを行ったときに、会場に一般市民

の方がいらして、桜が大好きで全国の桜を巡っているという、60歳近いご婦人でした。そうなるという開花するのかというのは、ものすごい関心事です。そういうことをいまのホームページあたりで、カチャカチャとやれば知ることができるというのは、そういうファンにすると、最大の武器を手に入れたようなことです。そういう点で開花情報を、きちんきちんと毎日毎日入れてあげるといのは、本当に素晴らしいことじゃないかなと思います。吉野町さんは第1回のサミットから連続して出場していただいているわけですが、もう一人連続出場していただいているのが高遠町さんです。やはり吉野さんの桜自慢だったら、私のほうも自慢をしたいということになるのではないかと思いますので、高遠町さん、いかがですか。

[高遠町 伊藤課長補佐] 高遠の伊藤と申します。高遠町ではホームページはありますが、桜の時期には特別に桜のリアルタイムの映像を出しています。それで20万件ぐらいのアクセスがあります。去年からそういう形にしたのですが、これによってどういうふうになったかという、お客様が一極集中するようになってしまった。うちは入場料をとってご入園いただいているのですが、1日当たり5万7000人のお客様が来るようになってしまったわけです。しまったと言ってもいけません、そうなるちょっとうちのほうも、施設がパンクしてしまうということがあった。これがいいことなのか、悪いことなのかは別として、そういうことがありました。



また、ほかへのリンクということになりますと、日本さくらの会さんのところには、「さくら名所100選」というのがあって、大概このメンバーの方は載っていると思いますが、もしこの「桜里園ネット」というものをつくったときに、日本さくらの会だとか日本花の会だとか、桜の専門の団体がありますので、そちらのほうにもリンクしていただければ、桜の維持管理のこと等出ていますので、いいなとは思っています。

それからもう一つ、余計なことで申し訳ないのですが、今日、ちょっと用事があって仙台のほうからきたのですが、夜の森公園ですか。夜ノ森駅のところで、富岡の桜を見せていただいたのですが、ちょっと心配だなと思いました。これはあと時間があれば、お話をさせていただきたいと思います。

[篠田] はい、ありがとうございます。桜には大きくいえば二つタイプがあるのです。吉野町さんや高遠町さんのように群生している桜を見るということと、それから1本だけの桜を見るということです。本巣市さんは、淡墨桜のある根尾村が合併して本巣市になっているのですが、ホームページに関連して、1本の桜、淡墨桜について、何かお話しできるようなことはありませんか。

[本巣市 高木助役] はい。ただいま篠田先生から、こちらへマイクを向けていただいたのですが、実は篠田先生が岐阜県の副知事さんでいらっしゃる頃に、私は県職員をしていたものですから、その関係がありまして大変親しくさせていただきました。ありがとうございました。

ただいまコーディネーターさんからもお話がありましたように、私どもの桜は淡墨桜1本です。樹齢1500年余で、いろいろと歴史のないわれもあります。皆様方のお手元に配布の資料の中にも書いてあります。

そんな中でこの淡墨桜をキーとした、旧根尾村のいろいろなイベントがあります。例えばオカリナで有名な宗次郎さんのコンサートを、淡墨桜をバックに演奏会を行うとか、さらには淡墨桜のいわれにも関連して、継体天皇と縁のある愛知県の真清

田神社と淡墨桜の 60km コースのウォーキングもやっています。そういう淡墨桜関連のイベントすべてを、それぞれの部署でホームページに載せてPRをしているわけです。

先ほどもご案内のように一昨年(2019年)の2月1日に発足して、この月の末でちょうど2年目の市です。昨年度は、それぞれの町村のホームページをそのまま引き継いで参りました。17年度早々から、新しいシステムを導入する中で、ホームページを抜本的に改革しました。もちろんそのホームページのトップには、淡墨桜がドンと出てきます。その淡墨桜については、観光情報の中に入れて込んでいます。

1本の桜ですし、それは当然春が見頃ですが、夏・秋・冬とそれぞれの季節にそれぞれの姿を見せてくれます。これを年間を通じて監視カメラが見守っていますので、ホームページ上で一年中どこからでも、見ていただけるようなホームページの使い方をしています。大事な大事な宝ですし、これからも一生懸命守っていかねければならないわけです。

過去に二度ほど枯死寸前の大変な危機がありましたが、関係の皆様方にお力添えをいただきました。特に皆様ご承知かと思いますが、作家の宇野千代さんに大変な働きをしていただきまして、二度目の枯死寸前の状態を救っていただいた。いまは山桜の若木を根継ぎをして、毎年大変美しい姿を見せてくれる。淡墨桜にかかわるホームページとしては、そんな活用をさせていただいています。

【篠田】 ありがとうございます。本当に桜の好きな人が、こういうさくらサミットに参加している自治体のホームページを、ずっとサーフィンしていけば、かなりの物知りになる。例えばいまの淡墨桜についての物語なども、そういうことを知っている人はそれほど多くないわけですから、ぜひともホームページの中に、その桜を巡る物語を載せてもらおうと、恐らく関心の深い、桜の大好きな人にとってみると、ありがたいんじゃないかなと思います。ほかに何かホームページと桜の関係で、ぜひともこの際言っておきたいというところはありますか。大村市さん、お願いします。

【大村市 吉野部長】 大村市の吉野です。確かにホームページをリンクさせてというのは、元々の所期の目的、より地域間交流を図るといった部分で非常にいいことだと思います。ただ私どものホームページを見ますと、まだ少しホームページそのものが成熟していない部分があります。どちらかというとお知らせという感じなのです。いままで紙やチラシでお知らせしていた部分に少し毛の生えた程度の、いわゆるお知らせに使っている。だからもっと市民の皆さんや市外、県外の方々に対して、大村市として情報を提供するというまでのホームページに、まだちょっと至っていない部分があるのかなと思っています。せっかくこの20団体でサミットを形成していますので、そういった団体でリンクを結んで、まずはそういった情報の提供をし合う。それが地域間交流、人と物の交流を図っていく方向に行くための第一歩だと、私どもは考えています。

【篠田】 ありがとうございます。実は本当にそのとおりでと思うのです。今日の富岡町長さんの提案のリンクというのも、やはり単にその団体の住民に対するお知らせだったら、そこに仮にアクセスしても、さほど関心と呼ぶことにはならない。やはりその町、その市ならではのデータがそこにあって、それにアクセスすることによって、なるほどねということになるのだろう。そういう点ではデータベースとして、そういう内容のホームページをつくっていくというのは、大変大切なことなんじゃないかなと思います。

それではもう一つホームページに関連して、リンクについて。現在ホームページをお持ちの団体で、いろいろとリンクはされていると思うのですが、ただ当該自治体の学校や国の出先機関というところのリンクは、比較的あるのですが、他の自治体とのリンクをどの程度されているのか。そういう点について先進的かどうか、私のところはこういう団体とこういう形でリンクしている、という取組みをや

っているところがありましたら、どうぞご発表いただきたいと思います。

〔高遠町 伊藤課長補佐〕 高遠は友好盟約を結んだ都市がいくつかあるのですが、その中の一つに新宿区というのがあります。なぜ新宿かというと、新宿は昔、高遠藩の内藤家の所有だったのです。新宿区のホームページを開きますと、高遠とリンクできるようにはなっています。

〔篠田〕 そうです、そうです。新宿御苑というのはまさに内藤家の屋敷の跡だと、確か聞いたことがあります。そうするとやはり新宿区民の皆さんにすると、高遠の桜は自分たちの桜のような感じがする、あるいはそれぐらいの気持ちに、うまく仕組んでいただいているわけでしょうか。

〔高遠町 伊藤課長補佐〕 ええ。もともと、新宿区と合併すればいいじゃないかという意見があったくらいなので。これは冗談ですが、そんなつき合いをさせていただいています。

〔篠田〕 いま新宿区とのおつき合いの話がありました。北区さんは逆に東京都の特別区の一つなのですが、自治体同士でそういった形の関係はありませんか。

〔北区 藤井収入役〕 私どもの区は友好都市を結んでいるところがあります。山形県の酒田市、群馬県の甘楽町、同じく群馬県の中条町とは、リンクをさせていただいています。それともう一つは中国の北京市の宣武区とも友好交流をしているのですが、ここともリンクをさせていただいて、いろいろ情報交換をしています。もちろん 23 区の中では、もう全部リンクができるようになっています。



〔篠田〕 中国とリンクとなると、例えば北区の区民がそこにアクセスした場合に、中国のホームページに飛ぶわけですね。そうすると中国語になるわけですね。日本語でも見られるようになっているのですか。

〔北区 藤井収入役〕 そこまではちょっとやっていないようですが、主に写真を載せたりすることが多いのだと思います。

〔篠田〕 ああなるほどね。ほかに何かリンクの関係で、面白い試みがありませんか。北海道の静内町さんも、事前の調査ではリンクをかなりされていると聞いているのですが、いかがでしょうか。

〔静内町 扇部長〕 北海道の静内町です。ホームページは私どもは早くから取り組んでいまして、桜のご案内等々、道内外の方々にご案内申し上げているところです。



一方で私どもは北海道ですので、桜の咲くのが一番遅い時期です。5月の連休3日から12、3日ぐらいまでが見頃で、職員は約300人いるのですが、この連休中必ずまとめた休みが取れないという状況が、ずっと続いている町です。なぜかと申しますと、北海道は広いので、私どもの桜の名所は7km続きます。その周辺は一带全域が牧場で、競走馬の8割をこの日高管内で担っています。お客様がきていただけるのは大変ありがたいことですが、周辺に大変高価な競走馬がいるということで、ちょうど競走馬の関係

の種付け時期等とも絡むものですから、早くからこういう業界の方々とリンクを密接に行って、別途ご案内申し上げます。

このホームページのよいところですが、この馬の関係で事故がありました。馬は高価ですので数百万から40数億する馬まで、この桜並木のそばにいます。犬等を車に乗せて、広い牧草地帯を走って回ることがあります。これらの事故防止のために、ホームページ上で、何とかそういうことのないようにご理解願いたいという苦言を呈したところ、段々そういう件数が減ってきたということもあります。これからホームページについて、なお活用を考えていきたいと思っていますし、全国的なネット構築について、考えていかなければならない時期にきているのかなと思っています。

【篠田】 ありがとうございます。今日は幸手市さんにもお越しいただいておりますが、幸手市でもサミットを開催したことがあります。事前の調査では、幸手市で行われたサミットをきっかけとして、いま富岡町さんがお考えのようなリンクを、独自に一時張られたことがあるとお聞きしました。どういう考えの下で張られたのでしょうか。あるいは結局いまはおやりになっていないという話なのですが、どういう問題点があるのか。そういうことを先輩として、参考までにお聞かせいただけるとありがたいと思います。

【幸手市 野村課長】 さくらサミットの際に、市のホームページに一回リンクを張ったことがあるのですが、前任者がどういう経緯でやめたかというのは、私も分かりません。いま新たに観光協会のホームページを、去年の3月から立ち上げて、そちらで観光情報はすべて発信しています。なぜやめたかというのは、そこまではちょっと申し訳ないのですが、わかりません。ただ、効果がなかったのかなと推測はするのですが。

いまの幸手市のホームページのアクセスの状況は、開花情報がほとんどです。桜まつりの期間中、3万件ほどアクセスがあるのですが、9割方が開花情報。幸手市の観光協会だけではなくて、そのほかに地元の幸手高校が、開花情報のホームページをつくったものですから、そちらのほうがたぶんアクセスは多いのかな。私どもは二番煎じなものですから、あまり件数は多くありません。



ほかの県内、あるいは周辺の県外の自治体とのリンクはしているのですが、それ以上のものはないので、今後の課題かなと思っています。観桜客は、長野や遠くは京都のほうからくる方もいますし、全国に対して情報を発信すべきかなと思っています。ぜひ今回を機会に、リンクを張りたいなと思っています。

【篠田】 ありがとうございます。実は幸手市でサミットを開催したときに、地元の高校生が、すばらしいホームページをつくってくれていました。なるほどなど。こういう若い、特に工業高校なんかの生徒になると、ここら辺は得意中の得意だと思います。そういう若い人たちの感覚で、ホームページをつくっていくというのは、市民参加型というのですか、そういう意味で住民の力を借りてホームページをうまくつくっていく、あるいは運営していくというのも手なのかなという感じがします。これはこれで一つの先進的な事例として、すばらしいものだと思います。じゃあ、いまでもその工業高校はまだ続けてやっているわけですか。

【幸手市 野村課長】 はい。毎年、開花情報は発信しています。

〔篠田〕 なるほどね。そうするとその工業高校の名前をヤフーか何かで検索すると、パッとつながるわけですね。ほかには、いかがですか。水上村さん、どうぞ。

〔水上村 椎葉収入役〕 熊本県の水上村です。うちの場合はホームページはありますが、内容的には観光案内程度です。まだ広くリンクできるようなシステムはありません。他町村とのリンク等もありませんし、桜情報についても、桜開花、何分咲きですよというぐらいの情報しか流していません。今後もっと研究していかなければならんと考えています。



〔篠田〕 僕が水上村のホームページにリンクしてみましたら、九州のグリーンツーリズム大学、そういうところにリンクするようになっていました。水上村は九州でもかなり進んでやっつけらっしゃるわけです。グリーンツーリズムについて勉強しよう、という関心を持っている人にとっては、大分の安心院などにリンクが張られたりしているの、グリーンツーリズムにこだわったことをやっているな、というメッセージが出ているように私は思いました。

それではここで、今日ご出席のサミットの各自治体の皆さん方に、一つ賛否を聞きたいと思います。先ほどの話のように、使い方によってはホームページは非常に有効である、しかしまだ十分にお互いにリンクされていない、ということが分かりました。内容もさらに充実させなければいけないわけですが、サミット参加自治体はすべてリンクしていくべきだということについて、ご賛成でしょうか。皆さん方、いかがでしょうか。（拍手）

全員の賛成をいただきましたので、まず富岡町長さんのご提案のリンクを張るということについては、ぜひともそうしようではないかということになりました。大変ありがたく思っています。

このリンクが張られますと、例えば富岡町の住民の皆さんも、役場のホームページにアクセスすると、さくらサミットのボタンがそこに置いてある。それをクリックすると、さくらサミットのホームページにつながって、高遠の桜はどうかなどというのであれば、そちらのほうにさらにアクセスできるということになる。これは住民の皆さん、あるいは関心のある方にとりまして、大変ありがたいことになるのではないかなと思います。

リンクの利点・課題・将来性

〔篠田〕 次に2番目のテーマですが、自治体のホームページをリンクさせる場合の利点、課題、将来性ということ。要はいまリンクを張りましようとなりました。そのリンクを張るに当たって、どんなことを中身としたらいいのか。いま大村市さんは、まだ住民に対するお知らせ程度しかないということでした。そうするとリンクを張っても、大村市さんの市民に対する、例えば税金を納めるのはいついつですよみたいなことばかりでは、やはり面白くない。中身をよくして、お互いほかの団体の知恵を学び合う。そんな形でやっていかないと、せっかくリンクしてももったいないような気がします。そういう点で、どういう中身を考えていったらいいんだろうかということについて、いろいろとご意見を伺いたいと思います。どうでしょうか、吉野町長さん。

〔吉野町 福井町長〕 先ほども言いましたが、やはり桜の花というのは、日本人にとっては特別なんです。そして自治体としては、われわれが一生懸命それに取り組んでいるんだということを、アピールできるようなものに育てていけばと思います。

【篠田】 はい、ありがとうございます。当然ながらリンクを張った場合に、そのリンクの中身としては桜のことばかりでなくても、自治体同士が学び合えるのにふさわしいような内容であれば、桜にこだわることはないだろうと思います。

先ほどの熊本の水上村は、桜の時期でないときにも年がら年中、観光をどうしたらいいかということで、グリーンツーリズムというアイデアを持ち込んで、一生懸命やっておられます。そういうグリーンツーリズムについて、ホームページに苦労話などを載せてもらいますと、それはそれで非常に貴重な財産になるだろうと思います。そういう意味で、こんなものを載せたら面白いんじゃないかなという点について、アイデアがありませんか。いかがですか。大村市さん、先ほどちょっと反省がありましたので、何かお考えのことがありましたら、もう少し。

【大村市 吉野部長】 はい。まずリンクを張ったとして、先ほども少し出ていましたが、インターネットで検索しても「さくら」でたくさん出てくるわけですね。そういった中で、このサミットのリンクを張ったものが、どういうふうに出てくるのか。先ほど「さくら 100 選」の話もありましたが、そういったところとどの程度の、どんな違いを見出していけるのかということが、非常に難しいなと悩んで、今回のテーマについて検討はしてきたのですが、具体的な案というのはなかなか難しい。

ただ難しいから始めないでは物事は進みませんので、まず一步踏み込んでやってみなくてはなりません。やってみて、その中でどういった部分が不足しているんだ、どういったものを修正するんだということを進めていくことが必要です。リンクを張ったから最初から完成品というのは難しい話で、これをある程度の期間をかけて、構築していくことが大事な事かなと思っています。

【篠田】 はい、ありがとうございます。ご発言をまだいただいていませんが、前橋市の場合は、合併された旧宮城村ですね、そちらの協議会の名前で、いろいろとホームページをおつくりになっているようです。何か協議会という少し行政から離れた団体でおやりになっているようですが、お考えがありましたらお願いします。

【前橋市 五百部課長】 群馬県の前橋市です。私どもは宮城地区といいまして、合併前は、宮城村という田舎でした。16年12月5日に合併して前橋市の一角となったわけですが、その宮城地区に赤城南面千本桜というのがあります。日本さくらの会から「さくら 100 選」に選んでいただき、桜による地域づくりを始めました。

いまは前橋市のホームページの中にリンクされているのですが、合併前から赤城南麓交流村という任意の団体があります。その事務局を私どもの宮城支所の地域振興課でやっている関係で、私どもの職員が宮城地区に関する桜の情報等をいろいろ発信しています。桜だけではないのですが、地域づくりの団体の活動状況やイベントの状況、また村のよもやま話や昔話を発信しています。

合併してからは、前橋市のホームページの中に入ったわけですが、前橋市自体のホームページは、トップページは月に4万件程度、ホームページ全体では月に10万件程度のアクセスが記録されています。赤城南麓交流村で発信する桜の関係の情報は、いつも4月の中旬になると、10日間ほど開花状況に合わせて桜まつりを開催するのですが、

去年は少し開花の時期が遅れた関係で、当初10日間の予定を3日間延ばして13日間開催しました。桜のライブ中継もやっているのですが、そんな関係で13日間のアクセスは約1万5000件ありました。

今後このさくらサミットの関係で、加入自治体とのリンクが容易にできるようになりますと、加入団体の桜に関するいろいろな情報のやり取り、また桜を生かした地域づくり等の情報のやり取りができるのでは



ないかと思って、期待しているところです。

〔篠田〕 はい、分かりました。いまは要するに前橋市のホームページにアクセスすると、そこにボタンが張られていて、この協議会のほうにアクセスできる仕掛けになっているわけですね。そうすると参加自治体が全部リンクを張った暁には、幅広いところから、この協議会にアクセスしてもらえるとということになるわけですね。

〔前橋市 五百部課長〕 はい。

〔篠田〕 はい、分かりました。そのほか特にありますか。どうぞ、仙北市長さん、お願いします。

〔仙北市 石黒市長〕 特にアイディアということではないのですが、このリンクを張るということについては、効果もあるし、私も賛成ではあるのです。しかし、各自治体はみんなそうだと思うのですが、先ほどの大村市さんのようにお知らせをしたり、桜であれば開花状況なり、桜に関する経験、情報をみんなに知っていただくということで、各自治体のホームページがあると思います。それにリンクを張って、お互いにアクセスできるようにするといったときに、そこに容易に飛び込んでいけるような構築の仕方を、ぜひ工夫してやっていただきたい。

つまりそのままであれば、普通はその自治体のトップページにボンと入る。そしてその中で観光なり桜というのを探して、見つけていくということになるかと思えます。せめて桜のみの情報、サブページができればいいのですが、それはあまりにも一時期の限られたことですので、ほかの観光行事も含めて、観光という大きくくりとか何かそういった中でのリンクのほうが、私はいいいのではないかという提案を、一つ申し上げておきたいと思えます。

〔篠田〕 実は大変重要なポイントです。リンクをまず張るということが先決ではあるのですが、やはりリンクを張った場合に、あるところは非常に密度の濃い、内容の濃いものが載っている、他のところはそうではないということになると、さくらサミット加盟自治体として一緒にやろうねということからいうと、少し残念です。そういう点では内容のある程度のレベルアップや均質化を図っていかなければならないでしょうし、とにかく桜について関心のある人の立場で考えると、たぶんこういうアクセスをしてくるだろうから、そのためにはこうしてあげなければいけないのではないかと。そういう見方というか立場で、工夫していくことが重要ではないかなと思えます。

ただそれは、今日この場でこうしようと決めるわけではありません。そのことにあまり時間をかけすぎると困りますので、今後またいろいろとどういう姿勢で取り組んだらいいかを、次回のサミットまでの間に詰めていく必要があるんじゃないかなと思えます。そういう点で本当はいろいろとアイディアをお持ちだとは思いますが、時間の関係で、この問題についてはここでとどめておきます。取組みの姿勢について、今日ここにお集まりの皆さん方に、確認をさせてもらいたいのですが、今後充実した内容の構築に向けて、それぞれの自治体が積極的に取り組んでいく、そういう姿勢で臨むんだということについて、賛意を表していただくとありがたいと思えます。(拍手)

はい、ありがとうございます。それではそういうことで取り組んでいただければと思います。ここで若干私からも、せっかくなので提案をさせてもらいたいと思えます。先ほど少し私が申しましたが、現在のぎょうせいのホームページにあるさくらサミットのページというのは、仲間内だけのホームページになっています。しかし桜大好き人間は日本にはたくさんいるわけですので、そういう人たちが触れることができるように、そういう人たちが自由に入れるようなさくらサミットのホームページでないと思えますし、もったいないと思えます。

そういう点でぜひとも、検索ページで「さくら」と打ったら、その画面の一番頭

に、さくらサミットというのが出てきて、これはいったい何だろうとクリックしてみると、さくらサミットのホームページにたどり着く。そこに各関連自治体のホームページがリンクしていると、一般の国民の皆さんも、例えば吉野町の桜はどうなっているかなど、そちらのほうにアクセスしていく。開いてみると、特産品のことでも知ることができる、こんなおいしいものがあるのかということが分かる。そういう開かれたホームページを作っていくべきじゃないかと、一点思います。

もう一点は、リンクを張るだけでなく、このさくらサミットのホームページそのものを、魅力あるものにしていく必要があると思います。例えばいま画面に出ましたが、これは日本離島センターの「しましまネット」というホームページです。大変面白い、結構楽しめる仕掛けになっています。先ほど日本地図がありましたが、それをクリックすると、それぞれの離島のホームページにたどり着くという仕掛けになっています。

ここまで一挙にやるのは大変なことです。ちょっと日本離島センターに、どのぐらいお金がかかるか聞いてみたのですが、サーバーを固定費として借り上げる必要がありますが、これが月々1万3000円、制作運営費が1年間で180万円かかると言っていました。金額が少しかさばるということですが、これも工夫によって何とでも下がりますよと言っていました。とにもかくにもここまで行くためには、容易なことではないと思いますが、こういう先輩格があるということをご参考にしながらい、積極的に取り組む姿勢を維持していただければ、大変ありがたいなと思っています。

リンク網のネーミング 「桜里園ネット」について

〔篠田〕 さて次に、3番目のリンク網のネーミングに移ります。先ほど町長さんから、大変日本的な提案がありました。「桜」と「里」と「園」と書いて「桜里園（おりおん）ネット」と読ませるわけですが、この点について何か質問等がありましたら、受けたいと思います。

この点については、今日は富岡町の観光協会で、今回のサミットについて大車輪で活躍された村井さんがいらっしゃいます。「桜里園ネット」のネーミングの由来の説明とともに、こんなこともやりたいねという提案がありましたら、少しご発言いただけるとありがたいのですが。

〔会場：富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会 村井委員長〕

やはり振られましたか。「桜里園ネット」のネーミングについてですね。

「桜里園ネット」、文字通り桜の里の園ということで、とにかくわれわれサミットの参加自治体の象徴である桜を、全面的にネーミングに表そうということです。それから「おりおん」という響きのよさに、私は引かれました。

いまの皆様方の議論を聞かせていただいている、やはり今後、事務局同士で内容の充実を図っていかないと、ちょっと難しいのかなという実感を持ちました。ぎょうせいのホームページを使っている状態ということと、各自治体でリンクの張り方や内容のばらつきがあるのも少々気にもなりました。それを均等化、均一化してリンクさせていくということは難しいですね。

私は商売をやっている人間で、私的な商売人の感覚からすると、リンクを張るということは大変すばらしいことです。横並びの連絡網の強化ということでは、大変意味があろうかと思いますが、例えば高遠町の情報を得たいのであれば、私のホームページから直線的にすぐ情報を得られます。横並びの面白さも確かにあろうかと思いますが。

私はこのサミット開催を準備する過程で、一つのアイディアとして、受付に物産展の展示をさせていただきました。大変ユニークな商品やすばらしい商品を、皆様に



協賛していただいて、これからお客様にお持ち帰り願おうかと思っています。商人的な発想で恐縮なのですが、富岡町では4月の半ば頃、桜まつりを行います。この特産物の展示会を発端として、参加自治体から物産を仕入れさせていただいて、富岡町内のメインの花場で一堂に皆様方の商品を展示し、即売会みたいな仕掛けを考えています。

要するに何か具体化されたつながりをアピールしたいなど、まず感じました。リンクを張るということだけでは、われわれ一般市民はまだピンとこない部分があるかと思えます。もっと具体的に皆様の商品を買って、桜まつりのときに大々的に、特産展示会みたいな具体的な仕掛けを一回やらないと、なかなか本当の意味でのつながりは芽生えてこないのかなと感じました。今年の4月までに、その物産展なども具体的に仕掛けてみたいと思います。それが意味でインパクトのある成果が挙げれば、われわれの結びつきもより強まっていくのかなという気がします。

〔篠田〕 ありがとうございます。会場の皆さん方からも、村井さんのようなご意見などをお持ちの方はいらっしゃいませんか。

ネーミングについて、いま村井さんから補足的な説明をしていただきました。語呂もいいし字もいいしということです。この点について、各自治体の代表の皆さん方に、賛否をとりたいと思います。ネーミングは「桜里園ネット」ということよろしいでしょうか。(拍手)

はい、ありがとうございます。それでは富岡町長さんから提案がありました自治体のホームページのリンクについては、以上をもってとりあえず終えたいと思います。

大合併時代・三位一体の改革の中での自治体運営について

〔篠田〕 それでは、次のテーマに移りましょう。冒頭述べましたが、いま市町村を取り巻く財政環境は、非常に厳しいのです。そういう時代にどう自治体運営をやっていったらいいのだろうか。これはまさにトップの方々にとっては、あるいは議会の方々もそうなのですが、一大関心事だろうと思います。また、財政が非常に厳しくなるとサービスの点でやはり住民も我慢しなければならないことも出てくるのではないかと。そういう点では住民の皆さんの関心事でもあるわけです。この財政が非常に厳しい時代における自治体運営のあり方について、これから少しお話をし、意見の交換をしていただきたい。

皆様、新聞等でご存知かと思いますが、国と地方六団体、地方六団体というのは、都道府県と市と町村という自治体の種類がありますが、首長さん側と議会側でトータルすると六つ団体ができます。国と地方六団体が3ヵ年かけて、地方分権時代にふさわしい税財政のシステムはどうあったらいいかということで、三位一体の改革に取り組んできました。

この平成 16、17、18 年が第 1 期というので、一応の方向づけが出たわけですが、その結果は新聞でご案内のように、かなり厳しいものです。国庫補助負担金が廃止される。全部廃止されたわけではないのですが、それを税に切り替えていくと同時に、地方交付税という市町村にとっては何にでも使ってよかったお金が、かなりの削減になっています。地方分権時代だといいいながら、自由に使えるお金がもらえると思っていたら、かなり厳しいではないかというのが正直な実感だろうと思います。

しかし日本のいまの国家財政、地方財政は、大変苦しい状況にあります。770 兆円の大借金を抱えているとよくいわれますが、そうなるほどある程度我慢をしなければいかんということも、正直なところだと思います。そうなることは一時的な話ではなくて、そういう状況が今後も続くという前提で、自治体運営をしていかなければならないだろうと思います。こんなことを私たちのところではやっているんだ、この苦境を乗り越えるためにこういうことをやっているんだ、というお互いの知恵

を披れきしていただきますと、このサミットの意味があるんじゃないかなと思うわけです。

まず皮切りに富岡町長さん、ご発言をお願いします。

〔富岡町 遠藤町長〕 先ほどはわれわれの提案したものについてご承認いただき、誠にありがとうございます。これについては、リンクする中身など、私ども事務方でしっかりと速やかに、各参加自治体とよく相談しながら、機能できるようにしていきたいと思っています。

さて、市町村の財政についての取組みということですが、非常に厳しい財政状況の中で、行政運営をしているということは、共通の問題です。わが町は電源地域で、この施設も電源交付金でつくったわけですが、とにかく一番ピークの、12、3年前の税収から見ると55%減で、45%の税収で同じ行政運営、行政需要をしなければならないという非常に難しい運営を強いられています。

そういう中で三位一体改革、いわゆる国庫負担金の削減や地方交付税の削減、しかしそれに代わるいわゆる税源委譲、われわれが満足していくほどのものは入っていません。しかし今後国に対して、もっとわれわれが希望するようなものは、期待は持てないということ踏まえて、どうあるべきかということで、いろいろなこれからの町づくりを展開しているところです。その中でやはりハードの時代はもう終わりました。もう社会資本の投下という予算の使い方はできません。新規事業等の国の補助金はもう全然採択になりません。

ですから私どもの町は桜をキーワードとした町づくりの一環として、一昨年、常磐道が富岡インターまで開通しました。首都圏との観光事業の展開、いわゆる交流人口の拡大によって、この町にある程度の活性化を与えていただく。交流人口からさらに定住に移行できるような町の受け皿づくりをしていかなければならないと考えています。加えて4月から、全国初の中高一貫教育がスタートします。全国各地から、スポーツその他のいろいろなカリキュラムを先駆けて展開しますが、これも一つの交流人口の付加価値、プラスになるかと私は思っています。まずそういう交流人口のソフトの町づくりが重要です。

また行政のいわゆるシンクタンクである職員の意識改革、行財政改革の断行です。それには一人ひとりの職員の自意識が大切。地域間競争に勝ち抜くには、やはり企業感覚、経営感覚で、これから自治体が生き抜いていかなければならないという使命感をしっかりと、われわれは行政の役割使命を踏まえる。また町民にわれわれの考え方、この危機感を十分に浸透させ、理解していただく。ですから町民にも、例えば桜の保護管理についても、ボランティアでいろいろと愛情込めた管理をしていただく。いわゆる協働の町づくりを基本テーマに、これから展開していきたいと考えています。新たなキーワードとして、桜に加えて、もっとテーマをつくって、魅力ある町づくりをしたい。ホームページにアクセスしていただいて、

どんどんわが町にきていただくというような展開を、これからめざしていきたいと考えているところです。

〔篠田〕 ありがとうございました。平成の大合併が何で行われたか。いろいろな理由はあるわけですが、旗を振ってきた総務省は、やはり住民サービスを今後充実させる、あるいは続けていくためには、行財政基盤が大きくなってはならない、そ



のために合併を進めてきたと言っています。総務省のホームページなどを読むと、そう書いてあります。

合併した本巢市さん、まだ若干しか時間がたっていないわけですが、合併してどういうふうにして行政を進めていくのでしょうか。さてこれからと言ったときに、意外や意外、三位一体の改革で懐具合もそれほどよくない。非常に苦しい環境だと思うのですが、どういうふうにして取り組んでいこうとされていますか。

[本巢市 高木助役] 先ほども若干触れさせていただきましたが、16年2月に3町1村で合併をしました。そのうちこの淡墨桜のある根尾村という村は、中部電力さんが揚水式のダムをつくられました。大規模償却資産の絡みで、行政が福祉を含めて非常に住民負担の少ない行政をやってこられました。ただ行政負担が少ないとはいうものの、大規模償却資産に不均一の課税、固定資産1.7%です。標準税率1.4%ですが、0.3%上乗せをして、根尾の村民も中部電力さんも、それを福祉等の財源に充てられてきた。個人の固定資産税の総額と、中部電力さんの大規模償却資産にかかる税額。これは雲泥の差になるわけですが、そういった中で、財源を生みながら大変手厚い行政がなされてきた。

一方、それから南へ下ると三つの町があるわけですが、だいたい人口1万5000人がトップで、あとは8000人ぐらいの町です。この三つの町については、標準的な行政がなされてきた。この3町1村が合併しました。当然住民サービスの面で、いろいろ格差がありました。3町1村の合併を前提に協議がなされ、すべてとは言えませんが、高い水準に合わせようということで、協議が収れんしました。そうなりますと人口の少ないところの高い水準に、人口の多いところの低い水準を高めて合わせたことから、大変な財政負担を被ることになりました。

そんな中で平成16年度が終わりました。17年度4月に向けての当初予算、それから18年度はいま作業中ですが、高止まりの福祉を含め、経常的経費に相当する部分に、とにかく大英断を下さないと大変なことになるということで、議会関係とも十分協議をしていて、現在2年目の17年度中に、行政改革大綱およびその実施計画を策定中です。議会サイドも行革の特別委員会をつくっていただき、両輪相まって市の将来は、5年間の行革がどうあるべきかということで、民間と議会、市のほうで現在進めているところです。

大変な議論がすでに現在もわき起こっています。150弱の行革項目について、確かに正直申し上げて私どもの市は近隣市町の比較においても高いですが、福祉を低下させることなく、平均的なところまで持っていこう。市議会や自治会長会を通じ、市に対する苦情として、合併して何もよくなったことはないんじゃないかというような大変厳しいご指摘を受けながらも、2年目、3年目に向けて、現在汗をかいているところです。たかだか3万5000人の市ですが、地域差が大変あった中で、合併についての苦労をしているところです。

そんな最中、国における三位一体改革を含めて、やはり私どもも17年度予算編成に向けて、財調を相当取り崩す中、また18年度に向けても、その財調をある程度キープしながら運営していくわけですが、合併特例債、これは耳には大変快く聞こえるのですが、本当に将来にわたって、地方交付税で補てんをしていただけるものなのかどうか。この交付税制度の行く末が若干不透明な中で、合併特例債も非常に使いつらいというやりくりを現在しています。状況はそんなところです。

[篠田] ありがとうございます。吉野町長さん、吉野町は今後も合併しないで、単独でいくということなのでしょうか。

[吉野町 福井町長] いや、合併したいと思っっているいろいろやってきたのですが、合併というのは相手が要りますよね。相手に嫌われたらどうしようもない。吉野町は決して嫌われているのではないけれど、ちょっと有名すぎるのです。よそから見たら、有名なところの土持ちを、われわれの金とするのかというムードがあったのでしょう。しかし富岡町長さんのお話を聞きますと、ここでも財政的に苦しいんだと

言っているのだから、われわれが苦しいのは当たり前だと思います。

それから三位一体ですが、それはもう構えたような話をすれば、われわれの苦勞から見て、三位一体の背後にあるのは地方分権だと信じなければいけないと思います。国の支配からどれだけ脱却できるかということ为基础に据えて、三位一体論議をしていかないと、三位一体をしても金の面で損するだけということになってしまいます。これから主張していかなければいけないのは、国で決めたことは国で勝手にやってくれ、地方で決めたことは地方でやりますよということ、はっきりと言っていかなければいけない時代になってくるんじゃないかなと、私は思っています。

〔篠田〕 いまの話ですが、結婚の相手がない、じゃあ単独でやるかということになるでしょうが、片やお金のほうは段々細くなってくる。そうすると住民に対するサービスについて、要は住民はサービスを受けるという受身の姿勢だけでは、これからはもうやっていけないのではないかと。やはり住民の皆さんもサービスの提供者の一員である、という発想に立たないといけないのではないかと感じがします。例えばそういう意味のものの考え方を、実はこういうふうに展開しようとしているんだということについて、何かお考えがありましたらご披露いただくと、参考になるんじゃないかと思うのですが。

〔吉野町 福井町長〕 私どもも当然お金がなくなってきましたから、町民の皆さん方にご負担をかけるところはかけなきゃいけない。実はついこのあいだケーブルテレビで、特別演説をさせてもらいました。例えば現在問題になっているインフルエンザの注射を打つのに、吉野町では、決められてきた上限が1人5100円です。住民の方、お年寄りがそれを受けられたときに、2000円しか取らない。3100円の町費持ち出しということをしているのですが、それはちょっとこれからは堪忍してもらわないといけない。せめて半分ずつにしましょう。自分の体のことは自分の責任なんだから。しかしインフルエンザということになると、隣の人がインフルエンザになっても、自分が危険を感じる。隣の人という関係において、地方の責任が出てくるんじゃないか。自分の責任と自治体の責任とをはっきりしていきましょうよ、という話をさせてもらいました。

〔篠田〕 ありがとうございます。ほかにもまだお聞きしたいのですが、時間が迫ってきました。

実は新聞等ですでに報じられているのでご案内かと思いますが、地方六団体の中に、作家の堺屋太一さんなどの有識者を集めて、新地方分権構想検討委員会が設置されています。いろいろなお金の話も含めて、分権のあり方について議論をすることになっています。地方六団体ですから、当然ここにご参加の皆さん方も全部メンバーということになるので、こういう構想委員会に、さくらサミットのメンバー一同の名前でやるのもよし、単独でもいいわけですが、こういうことをやってもらわないと困るということ、どしどし言うということが重要じゃないかと思います。

国と地方の協議の場を通じて、三位一体の改革をやってきました。当時の知事会の梶原会長は、戦う知事会ということをしていましたが、本当に言うべきことは言う。いままでのように、国がおっしゃることについて、はい、分かりましたというのではない。徹底的に戦おうということをやってきたのです。それは本当にすばらしい姿勢の転換であるし、成果があったと思います。やはり基礎的自治体である市町村においても、言うべきは言うということをしていかななくてはいけない。その受け皿がこういう検討委員会としてつくられていますから、市の場合は市長会、町村の場合は町村会を通じながら、意見を言っただけだと、非常にありがたいと思っています。

サミット全体会議総括 ―加盟自治体の連携強化にむけて―

[篠田] それでは時間が参りました。ここで私のほうから、今日の全体会議のサミットの総括をさせていただきます。先ほど来、議論がありますように、自治体運営は大変厳しい時代を迎えています。こういう時代にどう立ち向かっていくか。これはもちろん自分の頭で考えなければいけないわけですが、せっかく桜による町おこしという縁でつながっているグループですから、お互いに知恵を学び合うということを、併せて考えていかなければいけないのではないかと思います。

そういう点では、気兼ねなしに効率的に、年中意見交換できるようなツール、道具が不可欠ではないかと思います。今日幸いにも、各自治体のホームページをリンクしようよということが決まりました。これはこういう財政の大変厳しい時代において、あるべき道具が用意されたのではないかと。そういう意味で、この時代に非常になかった考え方だったのではないかとということで、コーディネーターの立場で高く評価したいと思います。

今後の問題ですが、第一にできるだけ早い機会に全自治体がリンクを張る。これをご努力いただきたいと思います。私も一市民として、どうなっているかなというので、その都度関心を持っていきたいと思っています。第二に、各自治体のホームページに載せる内容です。この点について凸凹がないように、レベル、水準の均質化を図るということも、併せて努力していただかなくてはいかんのではないかと思います。それと費用負担の問題がどうなるのか分かりませんが、そういう点も併せて早急に解決していく必要があるのだらうと思っています。さらに加えるならば、さくらサミットのホームページを開いてみると、先ほどの「しましまネット」ではありませんが、何と魅力的なホームページかとなるように、いろいろと工夫をしていただきたいと思います。

総括にはなりません、そういう感想を申し述べて、総括とさせていただきます。以上でサミットの全体会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。(拍手)



共同宣言

第16回さくらサミットは、全国12自治体が一堂に会し、ここ福島県富岡町で開催いたしました。

「さくら」を中心としたまちづくりを目指す全国の自治体が、新たな地域振興策を探り、情報交換を推進するために発足したさくらサミットも1988年の木次町の第1回サミット以来20年を経過しようとしています。

私たちを取り巻く環境は厳しさを増し、市町村合併、三位一体の改革が新たな展開を見せるなか、連携を更に強化し、自治力を高めていかなければなりません。

そこで本サミットでは、加盟自治体が目に見えるかたちで連携する取組みを是非実現し、そしてサミットの次のステップへ進めようという意味から、「～桜でひとつになる瞬間（とき）～未来への架け橋」をテーマに掲げ、討議を行ったところです。

具体的な方法のひとつとして、富岡町より参加自治体がお互いにネットワークを張った「桜里園（オリオン）ネット」を構築することを提案し、全体会議で承認されました。



「さくら」をキーワードとした情報交換はもとより、全国のさくらファンに広く情報を提供し、将来的に観光集客や特産品の流通へとつながるようなネットワーク構築を目指します。

今後も「さくら」で結ばれた自治体同士の絆を、多様な媒体を介しながらますます深め、お互いの発展のため今後も連携していくことをここに宣言いたします。

平成18年1月26日

北海道 静内町	宮城県 柴田町	秋田県 仙北市
茨城県 日立市	群馬県 前橋市	埼玉県 北本市
埼玉県 幸手市	東京都 北区	新潟県 新発田市
新潟県 上越市	長野県 高遠町	岐阜県 本巣市
奈良県 吉野町	鳥取県 南部町	島根県 益田市
島根県 雲南市	長崎県 大村市	熊本県 水上村
宮城県 北郷町	福島県 富岡町	

第16回さくらサミット in 富岡

開催地代表

福島県富岡町長 遠藤勝也



調印書

さくらサミット加盟20自治体は、第16回さくらサミット in 富岡における共同宣言に基づき、さくらで結ばれた加盟自治体の連携をさらに強め、サミットに関する情報を広く発信していくため、加盟自治体のホームページをネットワークでつなぐ「桜里園（オリオン）ネット」を構築することとする。

よって、第16回さくらサミット in 富岡・全体会議に出席した12自治体は、さくらサミット加盟自治体を代表し、ここに署名調印する。

平成18年1月26日

自治体名	代表者名 (役職) (氏名)
北海道静内町	経済部長 府 勇二
秋田県仙北市	市長 石黒直次
茨城県日立市	助役 根本茂
群馬県前橋市	地域振興課長 五百部公
埼玉県幸手市	商工観光課長 野村茂
東京都北区	収入役 藤井和彦

自治体名	代表者名 (役職) (氏名)
長野県高遠町	産業課長 伊藤亨
岐阜県本巣市	助役 高木 巧
奈良県吉野町	町長 福井良盟
長崎県大村市	企画商工部長 吉野 哲
熊本県水上村	収入役 椎葉道徳
福島県富岡町	町長 遠藤裕也



調印の間、「富岡コーラス」のみなさんが歌声を披露



次期開催地あいさつ

大村市企画商工部長 吉野 哲

本来ならば市長の松本が出席しまして、ごあいさつを申し上げるべきところですが、他の公務のため、本日の引継ぎ式に出席することができませんので、私が代理で参りました。



わが大村市は来年2月に市制施行65周年の節目を迎えますが、かねてからこの記念すべき年に、ぜひさくらサミットを招致したいと考えていました。この度、次期開催地としてご承認いただき、非常にうれしく思っています。誠にありがとうございます。

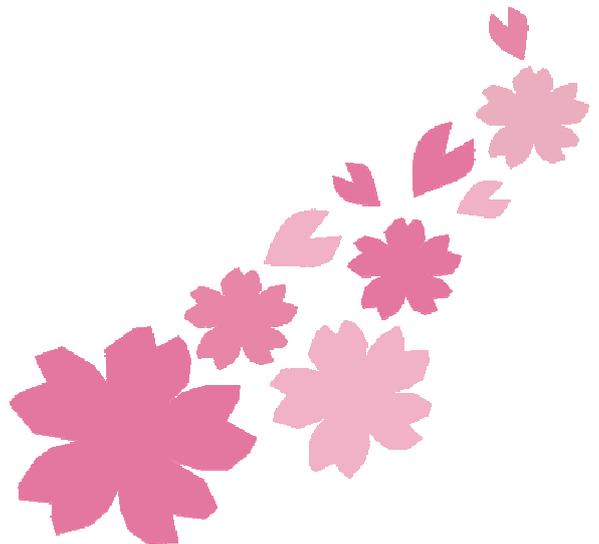
大村市には、国の天然記念物に指定されているオオムラザクラや、県の天然記念物フクシマザクラがあり、「さくら名所100選」の地として選定されている大村公園をはじめ、市内各所に桜の名所があります。それらを活用した観光振興を推進していますが、皆様と同様にさまざまな悩みを抱えています。本市でのサミット開催においても、そういった課題の解決策や新たな振興策を論議し、実りあるものになりたいと考えています。また本市では、過去平成4年に開催していきまして、今回で2回目となります。ぜひ多くの皆様にお越しいただきたいと思っています。

日本の西の果てですが、市民全員でお待ちしておりますので、どうぞお越しいただきたいと思っています。本日はありがとうございます。



第8回桜の親善大使任命式

第8回桜文大賞「桜にまつわる思い出の手紙」授賞式



「桜文大賞」

「桜のとみおか」委員会は、富岡町の象徴である「桜」をテーマにした町づくりを目指し、情報や人材の交流を深めて「桜のまち 富岡」を、全国に情報発信するとともに、自分の“ふるさと”というものに対して再認識してもらうことを目的として発足しました。多くの人が思い出にひとつは持っている「桜のある情景」。「桜のとみおか」委員会では、「桜文大賞」として、そんな桜の思い出をしたための手紙を募集してきました。

主催者あいさつ

富岡町観光協会会長 遠藤 勝也

受賞者のみなさま、おめでとうございます。

第 8 回「桜文大賞」には 788 通の応募をいただき、この 8 年間での応募総数は 2 万通を超えました。いわば、2 万人以上の方々の桜の思い出を、富岡町が受け止めたのだと思います。

これまで富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会が中心となりこの「桜文大賞」を開催してきましたが、特別審査員の小室氏をはじめ、町民の方々、大変多くの人々に支えられてきました。あらためて心より感謝申し上げます。

「桜文大賞」は今回で終了となるわけですが、「桜のとみおか」委員会では、この 10 年間、ほかにもたくさんの事業を仕掛けてまいりました。自分のふるさとである原点を見つめなおし、町のアピールにつなげるとともに、さまざまな交流を通じてグローバルな視点を持った青少年の育成を目指して活動してきました。

これからも町の活性化のために、さまざまな活動をしていきたいと思っておりますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

特別選考委員 講評

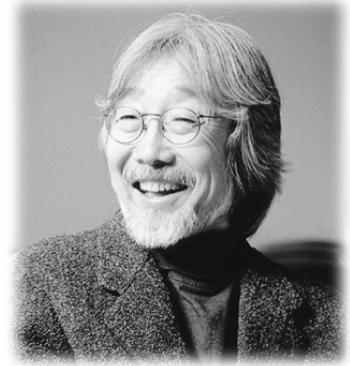
特別選考委員

音楽家 小室 等 (こむろ・ひろし)

1943年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻科卒業。68年、フォークグループ「六文銭」を結成。72年、第2回世界歌謡祭にて、「出発の朝」(上條恒彦と六文銭)でグランプリを獲得。

現在は、コンサート活動を中心に、テレビドラマ、ドキュメンタリー映画、芝居、ミュージカルの音楽を担当。また、エッセイの執筆など、幅広いジャンルで活躍を続けている。

ニューアルバム「ノー・グッド・ウィズアウト・ユー」。



受賞者のみなさま、本当におめでとうございます。作品にはそれぞれの思いやご自分だけの桜の思い出が込められていて、とても素敵でした。

落語家の柳家小三治さんの『ま・く・ら』という本の中で、“日本人が「花を見に行こう」というと、それは必ず「桜」のことである”ということが書いてありました。日本人にとっては、わざわざ説明しなくても、花といえば「桜」なのです。毎年春になれば、近所の桜が咲いたかどうかは必ず気になるもので、忙しくてついうっかり忘れてしまっていると心残りとなります。

私にとっては、桜といえばケンカの思い出もあります。実家が電気工事屋をやっていて春にはよくみんなでお花見に行っていました。最初は仲良くワイワイとやっているのですが、そのうちお酒が入って盛り上がってくるとたいていケンカが始まるのです。そんなにぎやかな思い出です。

また、私の好きな藤沢周平さんの『山桜』という短編は、里帰りした娘がお墓参りの時に山桜を見て思いをめぐらせる物語です。こちらは静かに咲く山桜の話です。

皆、それぞれに違う自分だけの桜の思い出があると思います。それぞれの作品が、思いの深い豊かな思い出でした。本当におめでとうございます。



受賞者代表あいさつ

桜文大賞 和泉 まさ江(神奈川県川崎市)

本日はこのようなセレモニーにご招待いただきまして、本当にありがとうございます。

昨年12月のある日曜日の晩、入賞のご連絡をいただいて喜びの声を上げたのですが、本当かしら、夢じゃないの?と不安にも思っていました。1週間ほどして正式な通知が届いたときには、大変うれしく思いました。

小さい頃から体の大きかった私は、大きな桜の木が大好きでした。春の花はもちろん、葉桜や夏の木漏れ日、秋の落ち葉、冬の凜とたたずむ姿。一年を通して、桜には思い出があります。

桜の里、富岡町には今回初めて来ました。東京から電車で3時間足らず。また桜に会いに来ようと思います。

ありがとうございました。

閉会の辞

「桜のとみおか」委員会委員長 村井 良一

「桜文大賞」には、この8年間で2万数千通の応募をいただきました。その2万数千の方々の思いをしっかりと受けつつ、お世話になりましたたくさんの方々へ深く感謝しつつ、万感の思いを込めて、ここに「桜文大賞」授賞式を終了いたします。

本当にありがとうございました。



第8回桜文大賞「桜にまつわる思い出の手紙」入賞者

桜文大賞	✿ 和泉 まさ江	(神奈川県川崎市)	「お母さんへ」
最優秀賞	✿ 登丸 しのぶ	(東京都世田谷区)	「ニューヨークの友人へ」
優秀賞	本田 昭毅	(佐賀県武雄市)	「天国の父へ」
	✿ 岡田 道子	(東京都港区)	「母の手に引かれ」
	✿ 佐野 正芳	(島根県出雲市)	「母のぼた餅」
	✿ 鈴木 玉喜	(福島県富岡町)	「わが家の嫁、朋子さんへ」
	安藤 知明	(大阪府豊中市)	「弟 晴文へ」
佳 作	栗田 富美子	(愛知県尾張旭市)	「女学生時代の級友へ」
	波多野 有子	(愛知県御津町)	「小学校六年生だった自分へ」
	柴 理恵	(東京都荒川区)	「絵のなかの桜餅」
	稲荷 正明	(北海道女満別町)	「亡き母へ」
	三上 洋一	(神奈川県相模原市)	「89歳の叔父へ」
	堀米 薫	(宮城県角田市)	「娘の萌美へ」
	印南 房吉	(神奈川県横浜市)	「『花筏』」
	今野 芳彦	(秋田県にかほ市)	「桜の祝報」
	国武 みきよ	(神奈川県横浜市)	「桜に願いを」
	梅木 加津枝	(大阪府池田市)	「母に」
	水木 亮	(山梨県甲府市)	「亡くなった母親に」
	手塚 よう子	(東京都北区)	「25年前の卒業生、つっぱり軍団に」
	間嶋 清	(大阪府阪南市)	「桜となる？敏子へ」
	岸野 洋介	(岡山県岡山市)	「親愛なるKさんへ」
	朝比奈 滋子	(福島県浪江町)	「友人」
	✿ 佐藤 洋子	(福島県いわき市)	「癌で天国に行った友人のゆかりさん」
	佐藤 真理子	(福島県桑折町)	「中学校の恩師」
	福島 千佳	(奈良県桜井市)	「父」
	✿ 吉田 富子	(福島県富岡町)	「七十六年来の友人 敬さんへ」
	江原 好一	(埼玉県東秩父村)	「雑巾」
	ブロン・マベル	(ボリビア)	「中村伊都子」
	石原 敬三	(北海道北見市)	「『母の日』の桜」
	藤田 睦美	(福島県鮫川村)	「小学校の頃の先生」
	川瀬 理子	(福島県会津若松市)	「愛犬」
	✿ 半谷 有紀	(福島県富岡町)	「家族」
	✿ 林 諒祐	(福島県富岡町)	「亡くなったひいおばあちゃん」
	草野 京子	(東京都板橋区)	「父に」
	西村 由加	(東京都練馬区)	「母親へ」
	荒巻 啓子	(福岡県福岡市)	「家族に」
	✿ 竹内 瑞紀	(長野県高遠町)	「観光客」

第8回桜文大賞・最優秀賞 作品紹介

桜文大賞

お母さんへ

いずみ
和泉

まさ江 え
(神奈川県川崎市)

ようやく春がやってきて、今年もまた桜餅を用意しました。お天気が良かったので向島まで出向いて入手した、桜の葉三枚で包まれたなんとも香ばしいものです。薄紅色というよりは少しベージュがかかったお餅が甘くてしょっぱくて、やはり初めての「桜餅のお使い」を思い出しました。家の中では「ピンクのお餅」と呼んで親しんでいた桜餅。店先でわたしは当然「ピンクのお餅」を頼んだのですよね。うきうきしながら帰ってお母さんがあけたら、たしかにピンクでしたが葉っぱのない、「すあま」でした。お母さんの笑い顔、お兄ちゃんの呆れ顔、わたしの泣きべそ。いつまでたっても忘れられないおかしくて哀しい光景です。日曜日にはお兄ちゃん夫婦が遊びにくるそうです。どこの桜餅を調達しておきましょう。それとも手作りに挑戦してみましようか。美味しく出来上がったら届けましょう。天国行きの宅配やさんに注文して。



最優秀賞

— ニューヨークの友人へ —

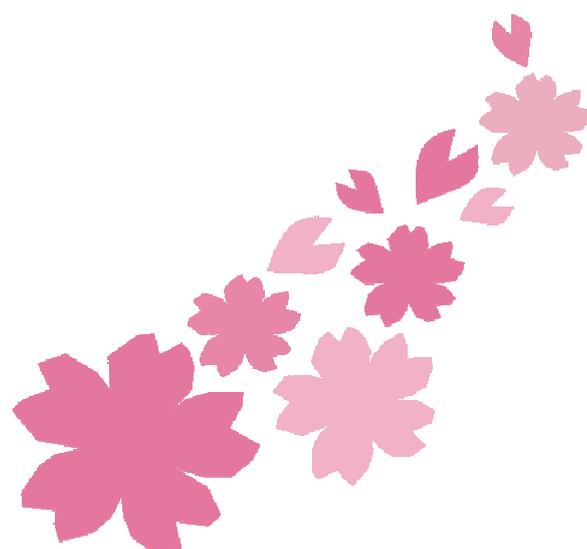
とまる
登丸

しのぶ (東京都世田谷区)

わかちゃん、お元気ですか？
日本は桜の季節を迎えました。セントラルパークの枝垂桜は、まだ咲いていませんか？
マグノリアや大振りの街路樹に囲まれて、地味だけど力強く咲いている枝垂桜。わかちゃんみたいだなって思う。日本人にしても小柄なあなたの体が、ひとたび舞台上に立つと、お人形みたいに手足の長い、ノッポな外国人よりも大きく見えた。そしてあなたは、世界中の舞台人が憧れるニューヨークで、ダンサーとして認められた。セントラルパークの枝垂桜が、しっかりと根を張っていったように。
私は早々と自分の才能に見切りをつけ、日本で違う道を見つめています。その選択は正しかったと思うけど、枝垂桜を見るたびに、少しだけ胸が痛みます。かつて、人生をかけて憧れた地で、成功しているあなたを思い出して。懐かしさと、ほんの少しの嫉妬を込めて、今日も枝垂桜に語りかけました。「会いたいね。でも、帰ってきちゃだめだよ」。

さくらサミット記念講演会

「桜とわたし」



講師

エッセイスト 大石邦子(おおいし・くにこ)

福島県会津美里町(旧・会津本郷町)生まれ。1961年、福島県立会津女子高等学校卒業。21歳のとき、交通事故に遭い半身麻痺となる。

78年に第2回福島民報出版文化賞受賞、81年には「この愛なくば」で文化庁芸術祭大賞・テレビドラマ原作賞を受賞。83年に、福島県文学賞受賞、皇居新年「歌会始の儀」に陪聴者として招待を受けるなど、車いすの生活を続けながら、エッセイストとして活躍を続ける。最新刊「人は生きるために生まれてきたのだから」。



講演要旨

私の生まれた町にはたくさんの桜があり、約2kmの桜並木の中を歩いて、高校に通いました。事故に遭い、20代のすべてを病院で過ごして戻ってきたときには、その桜は1本も残さず切られていました。日本の高度成長期、たくさんの桜が切られたのです。そういう中で桜を守ってきてくださった町の方々がいることをうれしく思います。いまその桜がきっと皆さんの町を潤し、人々の心を癒しているのでしょう。

父の愛、母の愛

高校時代に読んだ1冊の本が、ずっと心の隅にとげのように突き刺さったまま、何十年も心の中にありました。オスカー・ワイルドの『ナイチンゲールとバラの花』という短編です。極めて後味の悪い短編で、なぜこれが世界中で100年ものあいだ名作として読まれてきたのか私にはまったく分かりませんでした。この物語が、もつれた糸がほぐれていくように、新たな命を持って私の前に立ち現れたのは、母が亡くなったときでした。

あの(物語に登場する)バラの木の根元に転がっていた小鳥のむくろこそ、母ではなかったか。自分の思いどおりにいかないからといって、小鳥が命をかけて咲かせた赤いバラの花を腹立ち紛れに路上に投げ捨てたあの若者こそ、この私ではなかったか。私のために人知れず流されてきた母と父の涙を、私はどれだけ知っているだろう。その涙の中で咲かされてきた赤いバラの花を、私は、“どうして私だけがこんな目に遭わなければならないのか”という腹立ちの中で、どれだけ打ち捨ててきただろう。

私も21歳までは健康で、人並みの未来を夢見て生きていました。まさか自分がこのような体になろうなどとは、夢にも考えてみたことはありませんでした。ある日突然事故に遭い、意識が吹っ飛び、病院で気づいたときには、私はもう以前の私ではなくなっていたのです。人間はなぜ、こんなになってまで生きていなければならないのだろう。何のために人間はこの世の中に生まれてくるんだろう。身動きのできない病室の天井を見つめながら、毎日毎日そんなことばかり考えました。

私が倒れてから、いつも酒ばかり飲んでた父が、毎日病室に通ってきてくれるようになりました。「大丈夫だ。お父ちゃんが100まで生きて、お前とお母ちゃんの面倒をちゃんと見て、それからお父ちゃんは死ぬんだから、お前たちは何も心配することはない」。しかし私と目が合うと、父の目にはみるみる涙がにじんでいきます。

寝返りさえできなくなってしまった娘が、父には不びんで、正視することもできないほどの悲しみを心に抱いていたのだらうと思います。その悲しみが父の命を縮めたのか、100まで生きるはずだった父は、心臓マヒで突然亡くなってしまいました。

また、いまの私より10歳以上若かった母は、並行してガンを患いました。再発を繰り返し、あと半年の命と言われましたが、それから本当に長いこと生き続けてくれました。寝たきりの娘を残しては死ねないという、すさまじい母親の一念であったと思います。

いま思えば、私よりはるかに苦しい闘病生活を送ってきたはずなのに、私はどれだけこの母に当たり散らしてきたか分からない。すべてを人の手に頼らなければならない私は、家政婦さんや看護婦さん、お医者さんに嫌われたら、生きていくことができません。嫌われないために、いい患者でいようと、我慢しなければならなかった。その我慢が、1週間に一度母が病室に来てくれるときに破裂し、一番会いたかった母に当たってしまう。「もう私の人生なんか、何もかもすべて終わりよ」。私が叫ぶと、母は涙ぐみながら私の手を握りしめて言いました。「何もかもすべて終わりということは、何もかもすべてこれから新しく始まるということでもあるんじゃないの」。あの母の言葉は真実だったと思います。新しい人生が始まったからこそ、いまここにこうして私は生かされている。また、自分も大病を抱え、寝たきりになってしまった娘を抱えながら、何があっても生き通す、という母自身の覚悟の言葉ではなかったか。母にとっても過酷な新たな一日一日が、その日から始まっていたのでしょ。

新たな人生の始まり

母が亡くなったとき、母の師範時代の同級生が私に言いました。「くうちゃん、初めて言うんだけどね、お母さんが言っていた。親だなんていったって、あの子にしてやれることは何もない。せめて当たられてやることぐらいしか。一番つらいのはあの子なんだから」。私が言いようもない後悔と悲しみの中で泣きじゃくっていると、お坊さんが慰めてくれました。「この世に後悔のない親との別れなんてないんだよ」。

母が亡くなった4月22日は白モクレンと桜が満開で、一ひらの花びらも散らない日でした。母と100円の缶ビールで乾杯をして、お花見をしたのです。その日の夜、母は突然意識を失いました。そしてドドッと私の胸の中に倒れ込んできたのです。「もう一度でいいから目を開けて、目を開けて」。救急車で運ばれていく母を、私は縁側の柱に額を押し当てたまま見送りました。満開の桜が夜空に白々と浮かんでいたのを、いまなお忘れることができません。

その3日後に、私は新潟県十日町市での講演が入っていましたが、中止してもらいたくて電話をしました。半年も前から準備を重ねてきた主催者の声が一瞬止まり、その困惑の顔を沈黙の中から感じ取ることができました。私はそのとき、大人の約束の重さというものを、体がちぎれるような痛みの中で感じました。これが大人の約束なんだ。「分かりました、大丈夫です、行きます。このことは誰にも話さないでおいてください」。お葬式を1日早め、長いクラクションを鳴らして出て行く霊きゆう車を見送って、そのときにはすでに迎えの車が着いていました。次の日、私は桜色のスーツを着て壇上に立ちました。母が「きれいだね。あんたは長いこと病気ばかりしていたから、地味な服ばかり着ているけれど、明るい色の服を着ると、かわいく見えるよ」と言ってくれた、そのピンクのスーツを着て。

ここから私の一人で生きていく生活が始まるんだと、その壇上で思いました。この日の講演が入っていなければ、恐らく私は一歩も外に出ることができないままに、一人になってしまった悲しみに母の祭壇の前から離れることはできなかつたらう。母が自分の命の最後に、これからは一人で生きていくんだという覚悟を決めさせるために、その日を選んで亡くなったのかもしれない。そう思いました。

ある日、夢を見ました。森のベンチに母がかけていて、ひざに小さなリュックサックを抱いていたのです。「そんなの私が持つから」と持ち上げようとする、そのリュックは鉛の塊のように重くて、私はつんのめりそうになったのです。ようやく

リュックを抱き上げて振り返ると、母は私の一番好きな笑顔でそこに立っていました。ただそれだけでしたが、夢でも母に会えたことで、一晩で元気が出て、何だかまたがんばって生きられそうな気分になっていました。親というものは亡くなってからも、子どもを支えるものなんだろうか。友達の神父さんでもある先生に夢の話をしたら、先生は即座にこう言われました。「それはあなたを思うお母さんの悲しみの重さ、深さだよ。でも大丈夫、あなたはそれを抱きとめたのだから」。私は凍りつきました。そして反射的に思い出した一つの出来事があります。

まだ私が健康だった頃、私を好きだと言ってくれた一人の男の友達がいて、私が倒れてからも、献身的に私を支え続けてくれました。でも重い病人を支え続けるということは本当に大変なことで、彼もやがて私の病気の重さに疲れ果て、去ってしまいました。私は感謝こそあれ、恨みなんてまったくありませんでしたが、彼からももらったたくさんの手紙をどうやって処分したらいいか分からなかった。初めて外泊が許された日、私はその手紙の束を持ってうちに帰りました。お風呂のたき口で手紙を1枚1枚燃やしました。泣きじゃくりながら手紙を燃やし終えたとき、母が入ってきました。「そうやってみんな大人になっていくんだから」。母のひざが震えていました。私の悲しみのために母が泣いている。これ以上母を悲しませてはいけません。そう思うと、涙をぬぐって顔を上げた日のことを思い出していました。

あのリュックはお母さんの悲しみの重さだと言われたとき、なぜか、あのときの母の涙もあの中に入っていたのだろうかと思いました。親が子どもを思うのと、子どもが親を思うその思いの深さには、大きな隔たりがあるような気がしています。私は生涯、親として子どもを思う父や母の本当の心の中の悲しみや思いを分からないままに、親を思いながら命を終えていくのだろうと思います。

傷ついた子どもたちとの出会い

全国あちこちから、講演の依頼をいただくことが多くなり、いろんな子どもたちと出会うようになりました。その子どもたちが尋ねてきたり、手紙や電話をくれたりします。簡単に命を捨てていく子どもたち。真夜中、これから死ぬなんていう電話がかかってくる時があります。電話では、どうすればいいのか、どこの誰だかも分かりません。

私はいつも、子どもたちに言います。「15や18で、自分の人生これまでだなどと決して思っただけはいけません。15には15の人生が、20歳や30歳になってみなければ分からない世界が、50歳になって初めて見える世界がある。生きてみなければ分からないことが、この世にはたくさんある。生きられるから、人は生きられるようにつくられているんだから」。

先日山形での講演会で、一人の男の子がいました。その子は何か泣いているような仕草なのです。高校生ぐらいの男の子が涙を流して泣ける場所なんて、そうはないだろう。うちや学校では誰かに見つかる。この会場には泣くためにきたのかもしれないと思いました。講演が終わって、その子が出てきたときに、私のほうから彼の



の手を握ったのです。そのとき私は生まれて初めてリストカットという、その手首に無数の傷があるのを見ました。まだ血がにじむような生々しい無数の傷。言葉が出なかった。どうしていいか分からなかった。でも心の中で、「大丈夫だよ、大丈夫だよ」、何だかそう言いたかった。そのまま別れたのですが、何日かして差出人のない手紙が届きました。1枚の紙に1行だけこう書いてありました。「もう僕たちを捨てた母を恨みません」。

いまの世の中、子どもたちが本当にいろいろな問題を起こすけれども、ある日

突然、子どもだけがおかしくなるなどということはありません。こういう子どもたちの姿を通して、問われねばならないのは親であり、私たち大人ではないだろうか。私は彼らの問題を解決してやることなんかできませんが、彼らは誰かに自分の心を分かってもらいたい、そう思っているんだろうと思います。大人だって子どもだって、障害があったってなくたって、人生には幾度か、自分の心を分かってくれる人が欲しい。そう思うときがきっとある。

夜桜の思い出 一人を想う温かさ

傷ついた子どもたちに出会うとき、思い出す人があります。桜の季節でした。当時私がいた病院のところまで桜並木が続いていて、夜桜見物の人たちでにぎわっていました。私はもう自分の足で歩くことができないだろうことも察していた。私のためにみんなが苦勞している。それなのに、こんな私は生きていたって生きていなくたって、世の中少しも変わりなく動いていく。そんな落ちこぼれ感にさいなまれて寝ている枕の下は、のどかな夜桜見物の人たちでにぎわっており、窓一つ隔てて天と地ほどの違いがあります。

そんなある夜、いろいろ考えているうちに、もう誰にどう思われたっていい、生きてたって死んだって構わない、私はあらんかぎりの大声で泣き叫び、手当たり次第に物を投げつけて、真夜中に大暴れをしました。しかし、どんなに暴れても看護婦さんは何も言わず、ただじっと私を見つめているだけです。そのうちに私は疲れ果て、声も涙も出なくなりました。看護婦さんはおもむろに床にひざをつくど、私の頭を抱き寄せ涙をふいて言いました。「ちょっとだけ桜を見てこようか」。それはまったく思いがけない言葉でした。看護婦さんは、私自身でさえ気づかない心の向こうを見通すようにそう言って、私を背負って、真夜中の細い階段を下りていてくれたのです。その背中の温かさを、私はいまも忘れていません。「あんなばかなことをしたってどうしようもないんだ。我慢する以外ないんだ。悪かった。看護婦さんに謝ろう」、看護婦さんの背中の温かさがそう思わせたのです。

もしもあのとき、きつく叱られていたら、私の人生は大きく狂っていたらと思う。でも、そうではなかった。ああ、この看護婦さんは、私のこの心のやり場のなさや悲しみを、切なさをむなしさを、共に背負ってくれたんだ。私の心を分かってくれる人がいたんだ。そう思えることが、生きていく上でどれほど大きな力になったか分かりません。桜が咲くたびに、夜桜に出会うたびに、あの看護婦さんの背中の温かさが思い出されてなりません。

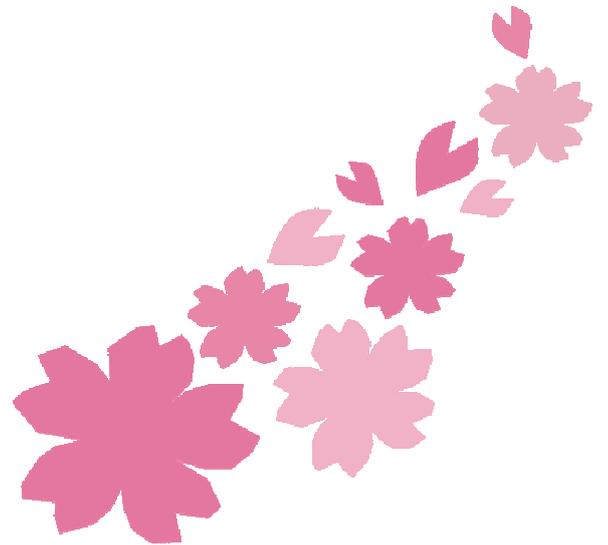
自分が一人の人間として本当に大事にされた。そう実感するとき、人はきっと変わっていきます。例えどんなだめな人間であったとしても、少しずつであったとしても、きっとその人に向かって心を開いていく。それが命の力だと私は信じて生きていきたい。あの夜桜がどんな人間をも等しく包み込むように、傷ついた心を癒してくれるように。

桜の優しさを

絶望の中、私が自立への一步を踏み出すために、桜は必ず必要だったのだらうと思います。一人で生きていかなければならなくなったあの夜も、私を包んでくれたのは桜でした。そして自暴自棄になっていたあの夜、看護婦さんに背負われて見たあの深々とした夜の桜は、障害があってもなくても、一人の人間として生きていかなければならないんだということを悟らせてくれた。

私がいまもなおこの世で一番好きな花、それは桜です。その桜を心に抱きながら、寂しいとき、うれしいとき、母に思いを伝えながら生きていきたいと思っています。どうか皆さんもくれぐれもお体を大切になさってください。そしてもし周りに苦しんでいる人、寂しく生きている人、傷ついた子どもたちがいるようなとき、どうか桜のような温かな優しさをもって、皆さんのほほ笑みを、優しい一言を分かち合っていたいただきたいと思います。

見学会・記念植樹



 見学会



宝泉寺の紅枝垂桜



紅枝垂桜を見学するみなさん



桜染めの説明(光洋愛成園)



桜染めの実演を見学



原子力発電の仕組みについて説明(エネルギー館)

記念植樹



代表者のみなさんによる記念植樹



植樹された様々な種類の桜の苗木



記念プレート



第16回さくらサミット in 富岡
～桜でひとつになる瞬間とき～未来への架け橋

報告書

発行日：平成18年3月15日

発行：福島県富岡町

〒979-1192

福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚 622-1

tel: 0240-22-2111

fax: 0240-22-0899